

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市縄文の森広場
2	指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年（2017）4月1日～令和4年（2022）3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 25,462人（前年度比 82.4%）          平成30年度30,907人          平成29年度30,098人          平成28年度29,362人</p> <p>《事業》 展示事業：常設展（山田上ノ台遺跡の展示及び野外展示）          企画展4回（年間テーマ「仙山交流」「東北の縄文遺跡」）          研究・調査事業、普及啓発事業：縄文体験、発掘体験、講座、イベント</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 64,727千円 （62,674千円）          ・ その他市が負担した費用 0千円 （0千円）</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 525千円 （642千円）          ・ その他収入 1,382千円 （1,538千円）</p> <p>（ ）は前年度決算額</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>・ 施設利用者アンケート調査を実施している。（令和元年12月）          ・ 小・中学校、町内会等の代表者の出席による運営懇談会を開催している。（令和元年7月、令和2年2月）</p>

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、山田上ノ台遺跡の保存・公開、縄文時代の復元林・復元住居の管理・公開等について、職員が十分理解している。また、縄文時代の調査・研究、展示、体験活動を主とする普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上といった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館している。指定管理料についても適正に執行されている。個人情報の保護に対する体制や、事故防止のための体制が整えられており、対応マニュアルが作成されている。事故発生時及び災害発生時の対応体制も確立されており、迅速に報告書も作成されている。毎朝の職員朝礼が行われており、事務連絡だけでなく、研修内容や事故発生時の対応などの周知が徹底されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、来館者の安全性の確保、清潔な環境が整えられており、利用者が安心して利用できる状態を保持している。野外展示の復元林・復元住居及び植栽についても適切な維持管理が行われている。仙台市環境行動計画に則り、節電・節水などの省エネ、リサイクルに努めている。過去の事例等を踏まえた改善策・再発防止策が共有されており、さらなる安全性の向上に努めている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナー・受付案内業務はともに良好である。ホームページやフェイスブックなどのウェブサイトの運用、わかりやすいパンフレットやチラシなど館独自の印刷物の作成・配布、市政だよりなど幅広い広報手段を活用し、広い世代へ情報を発信している。利用者からの苦情・意見に対しては、職員で対応を協議した後、館内で回答を掲示するなど、サービスの質の向上への取り組みがみられる。	28/28

V	施設固有の基準	<p>協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理すると共に、事業計画書に従って適切に事業を実施している。また、近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築しつつ発展的に事業を展開している。さらに、ボランティア会の活動も活発であり、体験学習のサポートや、まつり・コンサート等のイベントを協働で実施している。こうした活動の様子について、フェイスブック等を活用して積極的に公開している。</p> <p>なお、以下の近隣住民との連携について加点評価する。</p> <p>1) 近隣施設である児童館(人来田マイスクール児童館)との連携事業 令和元年度から始まった取り組みで、冬場の閑散期に職員が放課後の児童を対象に出前をしている取り組み。月2回程度での実施で、体験する児童は20~30人程度で、児童はもちろんマイスクールの職員にも喜ばれている。また、近隣児童館4館が実施している七夕飾りづくりの作品を、当館のエントランスで七夕期間に展示し、多くの来館者に見学してもらうことで、子どもたちの活動の達成感やモチベーションを充実に寄与している。この結果を受け、館では他の近隣児童館にも展開することを検討している。この館外への取り組みは先進的で特筆すべき内容であり、近隣住民や地域社会との良好な関係作りを実践していることから高く評価する。</p>	16/15
---	---------	---	-------

### 三 評価総括

《指定管理者（公財）仙台市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議を行いながら、協定書等に基づき適切に行い、ミュージアム施設として適切な調査研究、普及啓発、資料の保管等に努めたほか、年間を通して様々な事業を展開している。</p> <p>年間の利用者数については、当該年度は、台風等の悪天候や新型コロナウイルスの関係で、減少に転じた。新しい生活様式の中でどのように事業を実施していくか流動的な面があるが、多様な広報媒体の積極的活用、テーマを考慮した事業の実施、地域や学校との連携などにより、来館者の満足度を高めていく。</p> <p>特長である体験活動事業については、学校教育と連携した「利用学習」、日常の「随時体験」、様々なイベント体験、他施設での出前講座などを実施し、アンケートを見ても参加者から高い評価が得られている。</p> <p>展示事業については、資料の保存及び常設展示、復元住居及び植生の維持管理に加え、企画展示として「仙山交流」及び「東北の縄文遺跡」をテーマとし、春・夏・冬の3回開催し、縄文時代への理解を広める一助となった。</p> <p>普及啓発事業では「縄文講座」を3回、「週末体験講座」を5回(新型コロナウイルスの関係で1回中止)、「発掘調査体験教室」を2回(悪天候により1回中止)実施し、市民の生涯学習活動の支援を行った。また、より気軽に参加できるイベントとして「縄文まつり」を季節毎に3回開催し(秋は台風により中止)、この中では近隣の学校や市民サークルによるコンサート等も取り入れ、来館者・出演者双方の交流を図る場にもなった。</p> <p>自主財源事業としては「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」、学校・地域連携事業「縄文まるかじり」を実施した。</p> <p>今後は、調査・研究を踏まえた一層魅力的な企画と効果的なPRに努めるとともに、SMMA及び歴史ミュージアムネットワーク諸館等との連携を図りながら、ミュージアム都市実現の一翼を担っていきたい。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>①遺跡の保存管理のうち、縄文時代の復元林と復元住居については、日常業務である燻蒸処理や清掃、植栽の手入れなど維持管理が徹底されており、利用者が仙台の縄文時代の様子を体験的に学習できる施設の運営が行われている。また、館職員による復元住居の経年観察及び縄文時代の環境や生活、遺跡の保存、植生に関する基礎的な調査研究が維持管理に活かされている。</p> <p>②展示公開活動は、「仙山交流」「東北の縄文遺跡」という連続するテーマで歴史的な価値は高いものの目に触れる機会の少ない仙台市内や山形県・秋田県の縄文遺跡の遺物を展示した。体験活動は、学校の利用学習及び随時受付しているメニュー以外にも多彩な体験イベントを実施し、参加者の満足度が非常に高いものとなっている。</p> <p>③多くのボランティアが活発な活動を行っており、体験活動やイベントでの補助を中心とした多岐にわたる活動は、来館者からも好評を得ており、施設運営に不可欠な存在となっている。特に体験活動は施設活動の根幹となるもので、スキルの高いボランティアによる補助がなければ、施設活動が停滞する。こうした市民活動の拠点としても、良好な運営を行っている。</p> <p>④普及啓発事業としては、数多くの講座や体験活動イベントを実施し、多くの参加者を得ている。たとえば自主事業の縄文まつり(春・夏・冬開催)は、近隣の学生ボランティアや地域サークルが継続して参加するなど、地域のまつりとして定着してきている。また、「森で見つける「じょうもん」」は、地元小学校の子供たちが拾った木の実を育て、縄文の森に移植するものである。どちらも地域とともに施設を育む取り組みで、地域の中での施設の存在が深まってきたとして評価する。</p>	S

### 四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課